

2021年度 中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2022年 2月 14日

学科・学年 スポーツ科学部・4

氏名 山城妃南音

1. プロジェクト名

～キレイにし隊～

2. 活動期間

2021年 7月 12日 ～ 2022年 1月 14日

3. 活動場所(主だった住所・施設名)

中京大学豊田キャンパス周辺・貝津駅周辺

4. 参加者 12 名

5. 予算・使用経費等

費目	内容	予算金額	執行金額
材料費	中京水	7,200 円	7,200 円
材料費	ゴミ袋	1,620 円	2,277 円
材料費	ゴミバサミ	7,440 円	7,590 円
材料費	ビニール手袋	1,440 円	1,460 円
その他	マフラータオル	411,400 円	411,400 円
保険加入料	学生教育研究災害傷害保険等保険料	30,600 円	9,520 円
材料費	カラーレジ袋	163,243 円	4,1030 円

6. 奨励金以外でかかった主な経費等

使用時期	使用用途	金額

◆プロジェクトの当初予定していた活動内容

- ・大学周辺（貝津・浄水・保見駅）のゴミ拾いを月1で行う
 - ・一回につき体育会所属学生30名参加（各クラブ3～4名ほどずつ参加）
 - ・月曜日の5限の時間に70分間（移動も含む）行う
 - ・参加者には一人一つずつタオル・ビニール手袋を配布し、ゴミ袋は2人で1枚配布する。
 - ・粗大ごみの収集も行い、中京大学周辺のゴミ0を目指す。
- ・11月14日に行われる『子どもスポーツフェスタ』にて、参加者全員にゴミ袋（※1 オリジナルビニール袋を分別4種類1セットとする）を配布し、「キレイにし隊」として、イベント参加中に出たゴミをそのゴミ袋に捨ててもらおう。
- ・そのゴミ袋をゴミ収集場所にお持ちいただいた方には※2 景品プレゼント・次回のボランティア予告チラシを配布する。
- ゴミを各自で集めることでゴミ箱の設置が不要になり、ゴミの散乱を防ぐことができる。
- ゴミの分別・回収に協力いただいた方への景品を用意し、一つのイベントにすることで楽しんでもらい、ゴミ回収率も上がると予想する。

※1 オリジナルビニール袋

燃えるゴミ・燃えないゴミ・びん・かん の4種類各4枚を1セットとし、1家族1セットを受け付け時に配布

※2 景品

中京オリジナルマスコットのデザインが入った中京オリジナルタオルを予定している

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

- ・5限の時間に活動を行っていたが、冬季は日が短くなり暗くなるため11月から土曜日の実施を検討している
- 11月20日（土）9：50～11：30
12月18日（土）9：50～11：00
1月14日（金）12：45～13：20
上記日時で開催した。
- ・体育会所属クラブの参加が強制にならないような呼びかけの仕方
- 強制ではなく、協力をお願いします。と記し発信した。
- ・旧食堂前に集合した際の荷物を置く場所（現在は新体育館のミーティングルームを使用している）
- 青雲館の幹事会室を利用した。
- ・夕方の交通量が多い（歩道のある道を選択/広がって歩かない等の呼びかけを行っている）
- 午前中か昼開催に変更し、常に幹事会員が呼びかけを行った。

◆プロジェクトの目標達成度合い（活動内容や到達レベル等を具体的に記入してください。成果物があれば、添付してください。）

目標

- ・応援される大学・選手・チームを目指す
- ・学生のゴミの意識改革
- ・地域の信頼回復・結びつき

達成状況

- ・活動中に地域の方から声をかけていただける機会が増えた
- ・中京大学の学生という認識もされ、アピールができた
- ・参加学生も積極的に活動に取り組んでくれた

自己評価による達成度 80 %

◆改善点、やり残したこと

- ・学生のゴミ出しの意識改革という面では、思ったようなアプローチができなかった。参加学生は活動を通しながら、また直接伝えられる機会があったが、それ以外の学生に対してのアプローチが足りていなかった。
- ・実際に行った活動としては、清掃活動だけになってしまったが、それ以外でも目標を達成するために様々な工夫をしながらいろいろな活動を試してみてもよかった。
- ・強制ではないということの伝え方によっては、参加率が極端に下がることがあったので工夫し改善するべきだった。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気づきを得たか

（例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください）

回を重ねるごとに地域の方から活動中に話しかけてもらえることが増え、活動に対する励ましの言葉をいただけるようになりました。月1での開催ではありましたが、継続することにとっても意味があると感じました。

また、体育会幹事会としての活動が思うように行うことができていませんでしたが、チャレンジ奨励金がきっかけとなり、体育会を巻き込むような形にできたことが良かったです。

この活動は多くの方々のご協力をいただいて、実現・実行することができました。そしてたくさんの期待をしていただいたと感じます。一人では実現できないようなことでも、多くの方々にご協力いただいたおかげでやり遂げることができたと身に染みて感じています。活動目標や目的をきいて、ぜひ、と協力して下さった多くの方々へ感謝の気持ちで一杯です。

地域の方からも愛され、応援される大学・選手になるための活動の第一歩としては、良いきっかけ作りができたのではないかと思いますので、しっかりと後輩に引継ぎ、活動の継続と、さらなる活躍を期待します。

ご協力いただいたたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、この経験をこれからの活動にも生かしていきたいと思えます。

◆次回チャレンジしてみたいこと

今後、また何かを企画したり、代表になって実施する際には、目標や目的に沿った中で、様々な方法を試してみたり、いろんな角度からのアプローチができるようにしたいです。

◆チャレンジ奨励金制度を活用したい学生へのアドバイス

目標や目的を明確にしていれば、やるべきことがはっきりすると思います。また、それに賛同し協力してくれる人が周りにはたくさんいるので頼って、みんなで作り上げていくと、違うアイデアが生まれたり、もっといいものになると思いますし、達成感も大きいのではないかなと思います。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。



